

トピックス [江戸東京博物館で活躍するボランティア]～知識をみかく社会貢献～ ①

レポート [公開講座] ③

[佐藤雄治研究員を偲んで] ④

[平成18年度 厚生労働科学研究費補助金] ⑤

公開講座 今後の予定 ③

主なマスコミ報道 ⑤



第85回老年学公開講座 会場風景

老人研 NEWS

No.216
2006.9

東京都老人総合研究所



江戸東京博物館で活躍するボランティア ～知識をみかく社会貢献～

トピックス

社会参加とヘルスプロモーション研究チーム 主任研究員 小林 江里香

はじめに

東京・両国国技館のとなりに、江戸東京の歴史と文化を紹介する「江戸東京博物館」(以下、江戸博)という巨大な博物館があります。有名な観光スポットなので、来館された方も多いことでしょう。江戸博では、建物の大きさもさることながら、登録されているボランティア数も200人超と大規模です。常設展示を外国語や日本語で案内する「ガイドボランティア」や、昔遊びや伝統工芸などの体験教室を企画・実施する「ふれあいスタッフ」として、多くは月に2、3日のペースで活動しています。

2004年の春頃、「江戸博にはたくさんの中老年ボランティアがいる」という話を鈴木副所長から聞き、大都市での社会参加の事例として、博物館などの文化施設で活動するボランティアに関心を持ちました。当時、江戸博と当研究所は、江戸博を介護予防の場としても役立てようという



訪問学習の小学生に展示品を説明するボランティア 「高齢者元気プロジェクト」

エクト」を共同で進めていた縁があり、すぐに、ボランティアの方数名を紹介してもらい、直接お話をうかがうことができました。その結果、わかったのは次のようなことです。

まず、博物館のボランティアは、これまでに得た知識・技術や経験を生かして来館者にサービスを提供するかたわら、自身の知識・技術のさらなる向上のために学習し、その学習の成果を実践(=来館者へのサービス)に生かしています。つまり、博物館でのボランティアは、「社会貢献」であると同時に「生涯学習」でもあり、中高年者の社会参加のかたちとしても将来有望だと感じました。

また、江戸博のボランティアは、交通費などの実費を含め、金銭的な報酬は全く受け取っていません。このような無償ボランティアが、どのような動機から活動し、何によって活動への意欲を高めているのかは、ボランティア研究の点からも興味深いところです。

このような経緯から、江戸博のボランティアへのアンケート調査を企画し、2005年2月に、江戸東京博物館の全面的な協力を得て実施することができました。調査は、江戸博より当時のボランティア登録者247名

全員にアンケート用紙を送り、老人研に返送していただく方法で行い、195名（有効回収率78.9%）より回答を得ました。以下では、このアンケート調査の結果の一部をご紹介します。

表1 年齢層別にみた江戸東京博物館のボランティアの特徴と応募理由

年齢層	特徴	ボランティアへの応募理由ベスト3 （「よくあてはまる」と回答した割合）
20-30代 (52人)	・94%が女性 ・89%が仕事をもつ（62%はフルタイム就労）	①知識・技術の維持・向上（73%） ②新しいものの見方を学ぶ、視野を広げる（50%） ③歴史や日本文化を深く学ぶ（48%）
40-50代 (72人)	・88%が女性 ・58%が仕事をもつ（25%はフルタイム就労）	①知識・技術の維持・向上（56%） ②歴史や日本文化を深く学ぶ（52%） ②新しいものの見方を学ぶ、視野を広げる（52%）
60代以上 (66人)	・65%が男性 ・30%が仕事をもつ（1.5%がフルタイム就労）	①能力・経験を生かして社会貢献（59%） ②人の手助けや人の役に立つことをしたい（58%） ③歴史や日本文化を深く学ぶ（55%）

注：年齢不明者（5人）を除く

どんな人がボランティアをしているか

ボランティアの年齢層は、60代以上が全体の34%を占めますが、20-30代が27%、40-50代が37%おり、多様な年齢の人が活動しています。

ただし、表1のように、60代以上は下の年齢層にくらべて、男性の割合が高い（50代以下は9割前後が女性）、収入を伴う仕事に就いている割合が低いなど、年齢層による特徴もみられます。江戸博のボランティアに応募した理由としては、「歴史や日本文化を深く学びたい」がどの年齢層でも共通の理由として多くあげられている一方で、60代以上では「能力・経験を生かした社会貢献をしたい」「人の役に立ちたい」といった社会貢献型の動機が、20-30代や40-50代の比較的若い層では「知識・技術を維持・向上させたい」などのス

キルアップ型の動機が多くなっています。

また、ボランティアの種類（日本語ガイド、外国語ガイド、ふれあいスタッフ）による違いはありますが、「趣味でやってきたこと」「職業上の経験」など、これまでの人生での様々な経験が江戸博での活動に生かされています（図1）。

活動意欲を支えるもの

- "ボランティア仲間"と"活動有効感"

活動の全体的満足度や楽しさなど、ボランティア自身による活動の全体的評価はおおむね高く、今後とも活動を「ぜひ続けたい」と思っている人が74%にのぼりました。このように活動への意欲を強くもつ人は、江戸博での活動のどのような側面を高く評価しているのでしょうか。

アンケートでは、「館や職員」「ボランティア仲間」「活動自体」の側面ごとにそれぞれ複数の項目で評価してもらい、前述の活動意欲との関連の強さをみました。その結果、高い活動意欲をもつには、ボランティア仲間と良好な関係をもつこと（例：「他のボランティアは、何か問題があったとき気軽に相談にのってくれる」「ボランティア同士には、同じ立場で自由に意見を言える雰囲気がある」など）と、活動有効感が高いことが特に重要であることがわかりました。『活動有効感』は、「自分の活動が、お客さんの喜びや満足感を高めるのに貢献している」「人の役に立っていることを実感できる」「自分は、少なくとも他のボランティアと同程度には、ここでの活動をうまくできている」といった評価です。

ボランティア活動のための熱心な学習とその効果

ボランティアは、館が主催する研修会や、ボランティア同士での自主的な勉強会に参加したり、個人的に学習したりして、ボランティア活動の時間以外にも様々な学習活動をおこなっています。

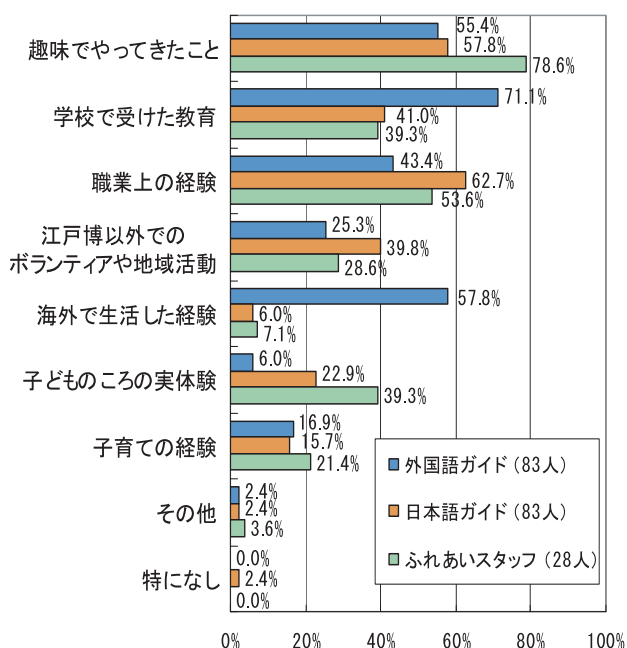


図1 江戸博での活動に役立っている経験（複数回答）

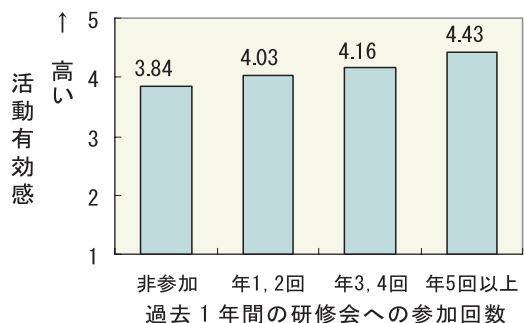


図2 館主催の研修会に多く参加している人ほど活動有効感も高い
(1年以上の活動経験者 144人)

たとえば、館外や自宅で、江戸博でのボランティア活動のために個人的に学習している時間について調べると、ボランティア全体の約6割が、週あたり1時間以上(月に4時間以上)を学習に割いていました。週に7時間以上(1日に1時間以上)学習している人は、全体では1割未満ですが、60代以上では2割近くを占め、年齢が高いほど学習時間が長いこともわかりました。

このような学習は、活動意欲にとって重要な「活動有効感」(前述)を高める効果もあるようです。江戸博では年に10回程度、自由参加の研修会を開いていますが、この研修会への参加回数が多いボランティアほど、活動有効感も高い傾向があります(図2)。

おわりに - ボランティア活動の原動力と大都市のパワー

最後に、この研究を通して、私自身が特に印象に残ったことを述べたいと思います。

まず、人間の「知識欲」の強さ、奥深さを強く感じました。江戸博のボランティアは、自分の知識や技術をお客さんによりよく伝えるために、もっと知識・技術をみがきたい、歴史や文化について知りたいという強い欲求をもっており、それが満たされることが、ボランティア活動を続ける原動力にもなっているのです。ですから、ボランティア仲間からにせよ、組織や専門家からにせよ、知識を深めるための適切な支援を得られることが、ボランティアを続けていく上でも重要です。

2つ目は、このように、高い知識・技術をもち、意欲の高いボランティアを多数集めることのできる大都市の底力のようなものを感じました。都内で、60~74歳の一般住民を対象にした社会参加のニーズ調査をしたことがありますが、「文化施設や名所・旧跡の案内」のボランティアをやってみたいという人は1割程度に過ぎず、他の活動とくらべても希望者は少数派です。その一方で、江戸博でガイドボランティアの募集をすると定員を超える応募があるのも事実です。東京のような人口規模の大きな都市では、たとえ割合としては少数派でも、そこには無視できない数の人(パワー)が存在しているということを実感しました。

レポート

公開講座

「第85回老年学公開講座」

7月26日(木)、板橋区立文化会館において、第85回老年学公開講座「老化予防のABC - ビタミン摂るならC, D, E -」を板橋区と共催で開催しました。

30度を超す暑さの中、高齢者を中心に994名の来場者があり、最新の老化予防の研究成果を紹介しながらの3人の講師の講演を、熱心に聴講されていました。



鈴木副所長



石神主任研究員

講座では、最初に、研究所の石神昭人主任研究員が、「足りない！老化が進む！ビタミンC」として、遺伝子破壊マウスを用いてビタミンCの『抗老化作用』を科学的に

裏付けた世界で初めての報告を中心に講演を行いました。続いて鈴木隆雄副所長が、「骨と筋肉の衰えを防ぐ！ビタミンD」として、ビタミンDが不足すると骨がもろくなるだけでなく、筋萎縮・筋力低下(サルコペニア)をもたらし、バランス能力も低下し、転倒・骨折に結びつきかねないことを講演しました。最後に、芝浦工業大学の浦野一郎教授が、「ストップザ活性酸素！ビタミンE」として、老化の大きな原因とされる活性酸素に対するビタミンEの効果について講演しました。

「ビタミンという言葉は日常生活でよく耳にしますが、知っているようで実は知らない。その必要性や効用が今回の講演でよくわかり、大変役立ちました。」との声を多数いただきました。



浦野教授

佐藤雄治さんを偲んで

老化ゲノム機能研究チームの佐藤雄治主任研究員は、平成18年6月21日早朝、急逝されました(享年41)。前日まで出張先の学会会場で発表を行い、元気な姿を見せていただけに、その報せは所員に大きな驚きと衝撃をもたらしました。佐藤研究員には、奇しくも本号への掲載を予定して寄稿を依頼していましたが、掲載は永遠に叶わぬこととなってしまいました。老化ゲノム機能研究チーム・チームリーダーである遠藤玉夫研究部長による佐藤主任研究員の業績紹介をはじめ、同僚、共同研究者の皆さんからも言葉を寄せていただき、佐藤雄治さんの追悼特集と致しました。



佐藤雄治研究員が目指していたもの

老化ゲノム機能研究チーム 研究部長 遠藤玉夫

本年6月21日急逝した故佐藤雄治博士は、その直前長崎において開催された第29回日本基礎老化学会において、「グライコプロテオミクスによる新規老化マーカー糖蛋白質の発見及びその性状解析」という演題を発表し、若手奨励賞を受賞致しました。本稿では研究の背景および当研究所においてこれまで佐藤博士が行なってきた研究の一端を紹介することによって、送る言葉としたいと思います。

平成7年佐藤博士は東京大学薬学系大学院博士課程を終了後、東京都老人総合研究所に奉職し、当時の糖鎖生物学部門で基礎老化学研究を開始しました。博士は、「老化の背景にはゲノムから作られるタンパク質や糖鎖に含まれる情報の変化および認識機序の変化がある」という斬新なアイデアに基づき、細胞間コミュニケーション(細胞同士の情報のやりとり)において重要な役割を果たしている糖鎖を含むタンパク質(糖タンパク質)に焦点を当て一貫した研究を行ってきました(図)。時代をリードする研究には常に新たな技術開発が必須ですが、博士は糖タンパク質の解析という困難な課題に果敢に取り組み、技術開発を伴う数多くの研究成果を発表してきました。いずれもその独創性、理論的な構築、技術的な背景がしっかりした高いレベルの研究成果として、国の内外から高い評価を受けています。

博士は、「糖タンパク質の機能を明らかにするためには糖タンパク質の糖鎖構造の変化を明らかにする必要がある」と考え、高速高感度糖鎖構造解析法の開発にも合わせ

て取り組みました。糖タンパク質を構成する糖鎖は、その不均一性・構造多様性によりこれまで解析が立ち後れていましたが、佐藤博士は蛍光標識法と高速液体クロマトグラフィー、質量分析計を組み合わせた新たな糖鎖構造解析法を構築しました。これにより、解析感度を約1000倍、解析速度を10倍向上させました。引き続き本解析法を用いて様々な糖タンパク質の糖鎖解析を行い、これまでにアルツハイマー病に関連するアミロイド前駆体タンパク質やタウタンパク質、前立腺がんに関連するタンパク質などの糖鎖構造を次々と明らかにしました。また質量分析計によるイオンの解裂パターンの解析から、簡便な糖鎖構造解析法の開発が可能であることを示しました。これらの研究成果に対して、今年の3月には「老化に伴う脳機能変化解明に向けた糖タンパク質高感度解析法の開発」という課題で、当財団の理事長賞を受賞しました。

さらに佐藤博士は、糖鎖とタンパク質を同時に解析するグライコプロテオミクスという手法を開発し、老化に伴い脳内の糖タンパク質にどのような変化が生じているのか検討してきました。その成果の一部が、上述の基礎老化学会の若手奨励賞として評価されたのです。この研究では、老化に伴い細胞質にカテプシンDという糖タンパク質が蓄積することを発見しました。今後この蓄積機構を明らかにすることによって、新たな老化メカニズムの解明が期待される重要な課題でした。

新しい研究領域を切り開くために、積極的に新しい技術の導入や開発を行ない、まさにこれから大空へ飛び立とうという矢先の急逝でした。佐藤博士は研究に真摯な態度で臨み、いつも全力投球でした。その姿勢は後輩や他の研究者に技術を教える時に良く出ていました。それが博士の人間性であり人間性でした。

本稿で紹介した故佐藤雄治博士の研究は、所内外の多くの研究グループとの共同研究によって行なわれたものです。ここに共同研究者各位に心から感謝するとともに、研究と並んで日本酒をこよなく愛した彼のご冥福を心よりお祈りします。

遺伝子から機能タンパク質への情報伝達

DNA (遺伝情報)

mRNA

未成熟タンパク質

「糖鎖やリン酸などが付けられることにより」
成熟タンパク質 (機能タンパク質)

細胞間コミュニケーションにおける糖鎖の役割の解明
を通してサクセスフルエイジング (健康長寿) の実現へ

佐藤雄治さんを偲んで

副所長 丸山直記

佐藤雄治博士の急逝は私がこの研究所に着任以来、もっとも悲しいできごととなりました。同僚・友人としての重大な喪失ばかりではなく、私が彼に期待していた老化研究のリーダーとなるという願いはもう叶いません。しかし彼が切り開いた新しい老化研究の種は、確実に存在しています。彼は私たちがこの種を育ててゆくことを望むでしょう。奥様とご子息の多幸を祈るばかりです。

老化ゲノム機能研究チーム 萬谷博

雄治さんは、私が籍を置いていた大学院研究室のOBで、よく研究室へお酒を持って後輩達の激励に来て下さっていました。多くの後輩に慕われており、大学院を卒業して10年以上経つ今でも、研究室で雄治さん知らない後輩はいない程です。人生の先輩として、“ときに厳しく、ときに励まし”と、いつも真剣に後輩を思いやる姿勢に、老人研で受け入れてきた多くの研究生や学生からも、研究チームの枠を越えて幅広く慕われていました。

私は老人研に来てからの約8年間、雄治さんと同じ部屋で机を並べて研究してきました。先輩で、同僚で、目標（ライバル？）でもありました。失ったものの大きさに、困惑を拭いきれませんが、雄治さんが築いて下さった、分子認識チームの研究基盤を大切にしていきたいと思えます。

老化ゲノム機能研究チーム 三浦ゆり

佐藤雄治さんとは「老人研NEWS」の編集委員と一緒に勤めさせていただきました。いろいろな提案をされて、アイデア豊富ですごいなと感心したのを覚えています。同じグループになってからは、仕事の相談などもずいぶんしましたが、やはり飲み会の時のムードメーカーの印象が一番強いでしょうか。今年は仕事ががんばろうと思っている、と話していたのに、本当に突然のことで残念でなりません。

老化ゲノム機能研究チーム 櫻井洋子

私は今年の4月から老化ゲノム機能に異動し、佐藤さんの研究をサポートすることになりました。私にとり初めて手がける技術習得の為に、根気よく丁寧に指導して下さり、さあこれから・・・という矢先の突然の訃報でした。でも私の中で佐藤さんからの指導はきちんと生きており、佐藤さん亡き後もその研究は続行することができています。研究者としてこれから益々充実してくる年齢であり、又佐藤さん自身も意欲的に研究に向かっていく姿をまじかに見ている私は、ただただ残念の一言です。

福祉と生活ケア研究チーム 権藤恭之

どんな美辞麗句を並べたとて彼は還ってこない。わかっている。学生に「人との死別は大きなストレスをもたらす人生の出来事だ」と、人事の様に話していた自分が恥ずかしい。我々は彼の死を受け入れねばならない。でもそれは、

少し照れながら話していた彼の笑顔を、真剣に机に向かっていた彼の後姿を思い出として風化させることではない。むしろ彼が語りたかったこと、伝えたかったことを理解しその遺志を継ぐことにほかならない。

東京医科大学病院 老年病科 岡田豊博

君の訃報を聞いたのは所用で訪れた東京からは遠く離れた関西の地でした。留守番電話に入力された内容を最初に聞いた時、まさか、それが、本当に君のこととは思えず、佐藤という名の知己を頭の中で必死に思い出そうとしていました。繰り返し留守番電話を確認し、携帯電話を持つ僕の手は知らず知らずに細かく震えていきました。研究室に確認し、君の妻君からの直接の連絡にて、それを事実として認識せざるをえない事を知りました。

なんとということでしょう。僕は医師でありながら君を死から守ってあげられなかった。

君との付き合いは約10年前、その頃僕は東京都老人医療センターにて臨床を学び、学位研究の為、上司の紹介にて君のいる老人総合研究所、糖鎖生物学部門の門を叩きました。その頃僕は臨床業務が忙しく研究の為に供せられる時間は、ほぼ毎日夕方から。君は研究の「け」の字もわからぬ僕の為、嫌な顔ひとつせず、手取り足取り研究の何たるかを教えてくれましたね。その指導は容赦なく厳しいものでしたが、僕が論文を出すため休日返上で必死に協力してくれました。まさに研究面で君は僕のお師匠様でした。

仕事を離れば、よく呑みにいきましたね。君は食事が旨ければ良く呑み「うまいか？」と聞けば「この顔を見ればわかるでしょ。」と満面の笑みで答えてくれました。お酒大好きでしたね。結婚前、君の冷蔵庫に所蔵された古今東西の名酒を、一番旨く呑める順番で提供してくれました。あの味忘れないよ。

僕の結婚式の友人代表は君であり、君の結婚式の友人代表は僕でした。まさに大の親友となったのに・・・

結婚後は家族ぐるみの付き合いでした。6年前に僕が赴任した新潟県までご夫婦で、そして子供を連れてよく遊びに来てくれました。本当にありがとうございます。最近、静岡県に越した僕に「前より近くなった。子供が新幹線に乗りたがっているから、近いうち遊びに行きます。」とメールをくれたばかりだったのに・・・忙しさにかまけ、返信すらしていなかった矢先のできごとでした。不出来な親友に君はあくまでも優しく、真摯に答えてくれましたね。そんな君に僕はもう何もお返しができなくなってしまった。

君が逝き早や二ヶ月、未だに君の死を受け止めきれずにいる僕がいる。僕にとって君に代わる者はいない。君ならどう判断するだろう、と僕は今後考え、そうした中で君は僕の心の中で生きつづけることだろう。

親友よ！天から愛する家族を見守りたまえ。そして皆の心の中で生きつづけよ。

安らかに眠れ・・・

平成18年度 厚生労働科学研究費補助金の取得状況

研究種目	氏名	所属研究チーム	研究課題	交付予定金額 単位千円
長寿科学総合				
主任研究者	遠藤 玉夫	老化ゲノム機能	老化関連遺伝子klothoによるカルパイン活性制御機構の解明および関連疾患の予防と治療に関する研究	10,240
主任研究者	新開 省二	社会参加とヘルスプロモーション	高齢者の社会参加・社会貢献の増進に向けた介入研究	0
分担研究者	佐久間 尚子	自立促進と介護予防		
分担研究者	藤原 佳典	社会参加とヘルスプロモーション		
分担研究者	丸山 直記	副所長	生体内酸化ストレスによる老年性疾患の発症機構の解明と予防	
分担研究者	吉田 英世	自立促進と介護予防	老化とその要因に関する長期縦断的疫学研究	
分担研究者	吉田 英世	自立促進と介護予防	高齢者の腰痛に及ぼす脊柱変性、生活習慣要因及び生活習慣病の影響と相互作用の解明	
分担研究者	稲垣 宏樹	福祉と生活ケア	健康長寿に関する要因の研究 - 超百寿者及び長寿 sib 調査 -	
分担研究者	金 憲経	自立促進と介護予防	効果的転倒予防技術の開発と転倒予防介入による生活機能の持続的改善効果に関する縦断研究	
分担研究者	権 珍嬉	自立促進と介護予防	大規模コホートの観察研究に基づく生活機能低下スクリーニング質問表の開発	
主任研究者	村山 繁雄	老年病のゲノム解析	軽度認知障害の、推定背景病理に基づく、最適認知症進展予防法の開発	19,180

政策科学推進				
分担研究者	小林 江里香	社会参加とヘルスプロモーション	後期高齢者の身体的・経済的・精神的支援における家族と公的システムの役割	1,100
分担研究者	深谷 太郎	社会参加とヘルスプロモーション		0
分担研究者	杉原 陽子	自立促進と介護予防		0
こころの健康科学				
主任研究者	村山 繁雄	老年病のゲノム解析	パーキンソン病ブレインリゾースの構築	6,900
分担研究者	石井 賢二	ポジトロン医学研究施設		1,400
主任研究者	萬谷 博	老化ゲノム機能	神経移動障害を伴う筋疾患の病態解明と治療法実現に向けた技術集約的研究	8,600
難治性疾患克服				
分担研究者	村山 繁雄	老年病のゲノム解析	神経変性疾患に関する調査研究	
分担研究者	村山 繁雄	老年病のゲノム解析	プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究	
第3次対がん総合戦略				
分担研究者	田中 雅嗣	健康長寿ゲノム探索	新戦略に基づく抗がん剤の開発に関する研究	5,700
分担研究者	水野 正一	自立促進と介護予防	がん予防対策のためのがん罹患・死亡動向の実態把握の研究	700
萌芽的 先端医療技術推進				
分担研究者	石渡 喜一	ポジトロン医学研究施設	PETを用いた多施設共同臨床試験によるアルツハイマー病の超早期診断法の確立と普及	4,280

老年学公開講座 今後の予定



第86回

「認知症に強いまちを作ろう！」

日時：平成18年9月28日(木)午後1:15～4:30
 場所：調布市グリーンホール 大ホール(定員1,300人)
 最寄り駅：京王線 調布駅 南口下車1分
 (東京都調布市小島町2-47-1)
 主催：東京都老人総合研究所
 共催：調布市/東京都老人クラブ連合会

第87回

「散歩のための第一歩」～無理せずできる老化予防～

日時：平成18年10月19日(木)
 場所：江戸東京博物館ホール(定員450人)
 最寄り駅：地下鉄大江戸線両国駅下車徒歩1分
 JR両国駅下車徒歩3分
 (東京都墨田区横綱1-4-1)
 主催：東京都老人総合研究所
 共催：墨田区

事前申し込み不要 手話通訳を同時に行います

主な
マスコミ報道

(H.18.7.1～H.18.8)

老化ゲノムバイオマーカー研究チーム 研究部長 白澤 卓二
 「How to stay Young while getting Old」(JAPAN CLOSED-UP H.18.7.1 430号)
 「TOKIO進化びと 老化防止、料理から探る」(日経新聞 H.18.7.5)
 「103歳の現役音楽家中川牧三 健康長寿の秘訣」(日本テレビ 午後は ・おもいっきりテレビ H.18.7.19)
 「クイズdeなっとく！あなたもできる！酸素で健康ライフ」(NHK総合テレビ 生活はっとモーニング H.18.7.19)
 「ユニバーサルデザインビジネス・シンポジウム2006 - 食のユニバーサルデザイン - 」(NIKKEI DESIGN8月号 H.18.7.24発行)
 「ご存知ですか!? 食のアンチエイジング」(Foobism フービズムvol.03 H.18.8.10 発行)
 「認知症予防 最新情報」(日本テレビ 午後は ・おもいっきりテレビ H.18.8.15)
 「アンチエイジング=「不老」はここまで進んだ！」(講談社「月刊現代」H.18.10月号)
 老年病のゲノム解析研究チーム 研究部長 田久保 海誉
 「超寿宣言 がん治療3 進行遅いなら静観も」(読売新聞 H.18.7.06)
 「緑黄色野菜ジュース！命と肌にこの一杯！」(TBSテレビ ビーカンパディ H.18.7.8)

福祉と生活ケア研究チーム 大竹 登志子
 「知っておきたい口腔ケア」(ワムネットプラス <http://www.wam.jp/>)
 「週間WAM de レッスン H.18.7.10より12回シリーズ」
 老化ゲノムバイオマーカー研究チーム 石神 昭人
 「ビタミンC不足で4倍の老化速度」(健康産業流通新聞 H.18.7.18)
 「ビタミンCで老い防ごう」(日本農業新聞 H.18.8.23)
 福祉と生活ケア研究チーム 研究部長 高橋 龍太郎
 「家庭内事故の恐怖」(日本テレビ リアルタイム H.18.7.20)
 介護予防緊急対策室 室長 大淵 修一
 「地域包括支援センターを支援する機能 情報提供と研修で後押し 東京都老人総合研究所介護予防緊急対策室 介護予防区市町村サポートセンター」(月刊ケアマネジメント8月号 H.18.7.30)
 自立促進と介護予防研究チーム 研究部長 本間 昭
 「時時刻刻『学習療法』300施設に『脳トレ』川島教授が考案 認知症改善に効果？ 満足・達成感に意味」(朝日新聞 H.18.8.20)
 社会参加とヘルスプロモーション研究チーム 溝端 光雄
 「高齢ドライバ-の運転適性の変化」(テレビ朝日 報道ステーション H.18.8.24)

編集後記

しばらく前、ある介護保険事業者による不正請求の結果として、当時の責任者が逮捕されたという新聞報道がありました。この事業者は、介護保険が始まる以前よりボランティアを組織して、先駆的な実践を行っていた住民団体でした。この団体を十年ほど前に訪ねた時、地域福祉に貢献するシステムの構築を目指す、その熱い思いを語ってくれた事を思い出さずにはいられません。初心を忘れず、貫くことの難しさを実感しています。故佐藤雄治博士の志を胸に、想いを新たに2006年の夏でした。 (M)

